

お問合せ先
OBARA GROUP株式会社
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10
TEL. 046-271-2124

適切に選別された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用
して造ります。



www.obara-g.com

OBARA-G REPORT

第54期 第2 四半期報告書

2011年10月1日………2012年3月31日

証券コード 6877

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2012年第2四半期連結累計期間における事業の概況等をご報告致します。

第2四半期連結累計期間においては、米国経済が緩やかな回復基調にあるものの、アジア地域における景気拡大スピードの軟化や欧州諸国における財政の先行き不透明感を通じた金融面への影響などにより、世界的には混沌とした状況となりました。

我が国経済につきましては、依然として楽観できない状況が続いたものの、個人消費や企業の生産活動に一部回復の動きが見られるとともに、2012年2月及び3月では外国為替市場における円高に一定の改善が見られるなど、上向きの動きが見られました。

そのような外部環境のなか、平面研磨装置関連事業がエレクトロニクス業界の需給環境悪化の影響を受けましたが、溶接機器関連事業が自動車メーカーの生産活動や設備投資による需要拡大への対応を積極的に展開したことで、当社の業績は、前年同期を下回ったものの、期初計画を上回る結果となりました。

なお、2012年度の第2四半期末配当金につきましては、1株につき10円とし、本年6月12日を支払開始日とさせていただきます。

依然として不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、時代を先取りする技術開発を続け、各ローカル市場に最適の製品・サービスを丁寧に提供することによって、グローバルでの競争力強化を図る所存であります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。



2012年6月
取締役社長 小原 康嗣

目次

株主の皆様へ	▶ 01	トピックス	▶ 07	連結財務諸表	▶ 13
営業の概況	▶ 03	連結業績ハイライト	▶ 09	会社情報／株式情報	▶ 15
セグメント別事業概況	▶ 05	地域別の概況	▶ 11	株主メモ	▶ 17

営業の概況

連結業績サマリー

(百万円)

	実績			通期の見通し	
	前第2四半期累計	当第2四半期累計	前年同期比	期初計画	計画修正後
売上高	16,372	15,290	△6.6%	31,500	30,500
営業利益	2,078	1,898	△8.7%	2,800	3,500
経常利益	2,151	2,132	△0.9%	2,700	3,800
四半期(当期)純利益	1,634	1,155	△29.3%	2,100	2,600
1株当たり配当金	10(円)	10(円)	—	10円(年間20円)	10円(年間20円)

03

第2四半期連結累計期間の概況について

当社と深く関わる自動車業界につきましては、アジア地域での自動車需要の拡大を背景として設備の増強が行われるとともに、生産活動についても活発な動きが見られました。一方、同じく当社と深く関わるエレクトロニクス業界では、民生用エレクトロニクス製品の減速傾向を受け、設備投資及び生産活動は、落ち着いた状況となりました。

当社は、このような経営環境に対応するため、各市場動向に応じ、設備品及び消耗品の拡販に努め、ローカルニーズの製品開発を加速させるとともに、技術革新・次世代装置など高付加価値製品の開発にも注力してまいりました。

この結果、第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期を下回りましたが、期初計画を上回る業績となりました。

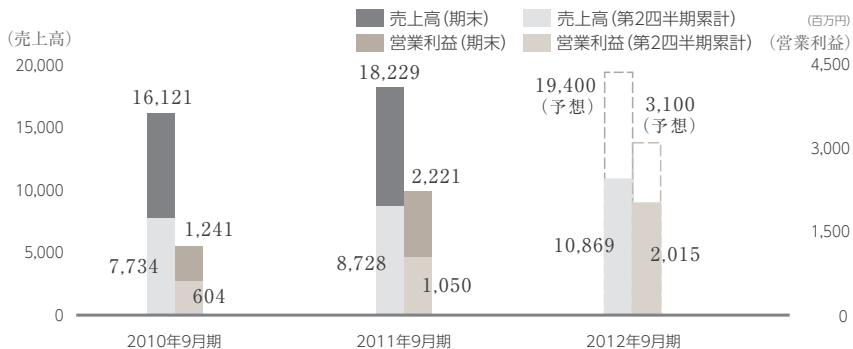
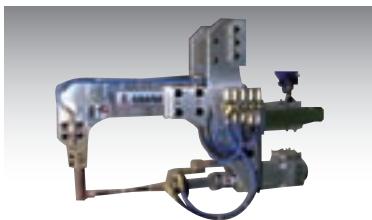
通期の見通しについて

第2四半期連結累計期間の業績及び足元の需要環境を踏まえて、通期の見通しを上方修正しました。引続き溶接機器関連事業において、アジア地域での業績が順調に推移する見込みであることから、売上高305億円(期初計画315億円)、営業利益35億円(期初計画28億円)、経常利益38億円(期初計画27億円)、当期純利益26億円(期初計画21億円)を予定しております。

04

セグメント別事業概況

溶接機器関連事業

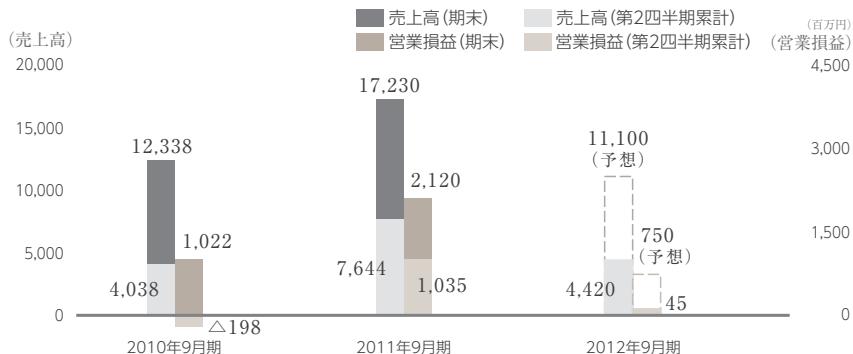


(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

溶接機器関連事業につきましては、取引先である日系・アジア系自動車メーカーにおいて、アジア地域を主体に積極的な増産投資が行われ、自動車メーカー各社の高水準な生産活動が継続される中、当事業として設備品の需要拡大への対応並びに消耗品の拡販に努めたことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業売上高は108億69百万円(前年同期比24.5%増)となり、営業利益は20億15百万円(前年同期比91.8%増)となりました。

平面研磨装置関連事業



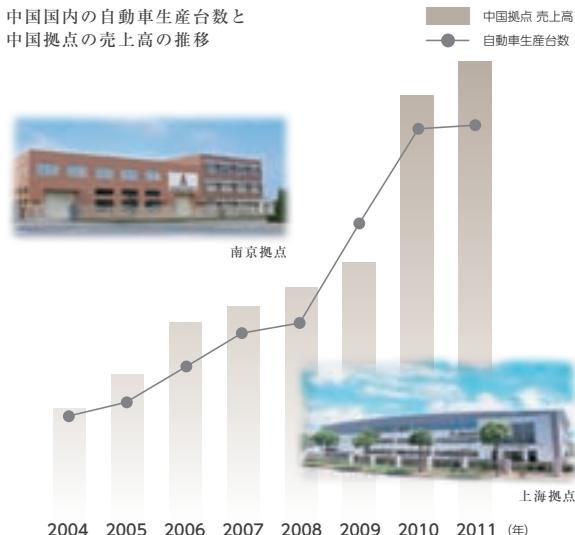
(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

平面研磨装置関連事業につきましては、取引先であるシリコンウェーハなどのエレクトロニクス関連素材において、設備投資及び生産活動の軟調傾向の中、一部回復の兆しも見られました。このような環境の下、当事業として設備品及び消耗品の拡販活動を各業界へ展開し、受注高では第1四半期比増加傾向となりましたが、製品リードタイムの関係から売上面への寄与は限定的なものとなりました。

この結果、当事業売上高は44億20百万円(前年同期比42.2%減)となり、営業利益は45百万円(前年同期比95.6%減)となりました。

溶接機器関連事業／中国市場での躍進続く

1994年に設立した中国拠点の躍進が続いています。2012年3月の月次売上高は、過去最高を達成しました。中国において、経済全体が緩やかな調整局面にある中、自動車の生産及び販売については順調に推移するとともに、GDPや人口規模に裏付けされた更なる市場拡大を見据えた、自動車メーカー各社による設備拡充への投資が続いています。当社は、急速な変貌を遂げる中国マーケットに対し、自動車ボディ向け溶接機器のリーディングカンパニーとして、製品力の強化を一層進め、現地ニーズを踏まえた事業活動を展開してまいります。

中国国内の自動車生産台数と
中国拠点の売上高の推移

07

平面研磨装置関連事業／SEMICON JAPANに出展

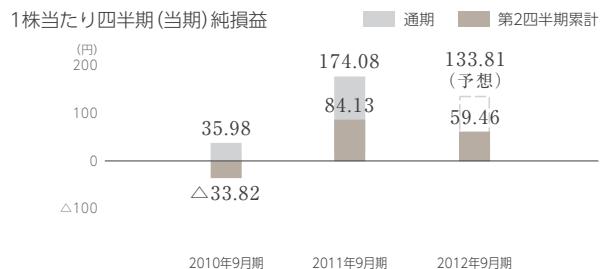
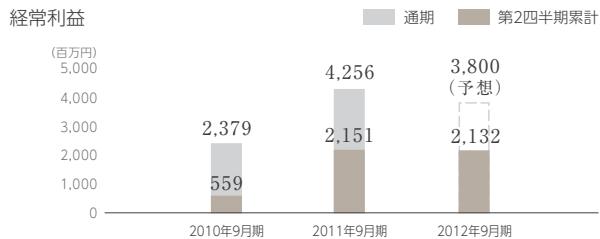
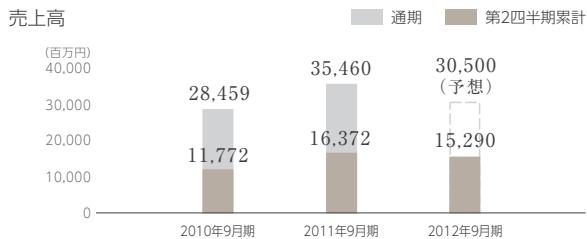
2011年12月幕張メッセで開催された半導体製造装置・材料の国際展示会「SEMICON JAPAN2011」にて、当社は、今日のシリコンウェーハ平坦化に求められる生産性・品質ニーズに応える、ラップ装置・ポリッシュ装置・エッジポリッシュ装置・消耗副資材の総合ソリューションを提案しました。また、広範なエレクトロニクス素材を精密研磨する片面研磨装置50GPAW等についても紹介するとともに、当社の装置シリーズを使用した効果的な製造プロセスについてのプレゼンテーションを行い、国内外から注目を集めました。



SEMICON JAPAN

08

連結業績ハイライト

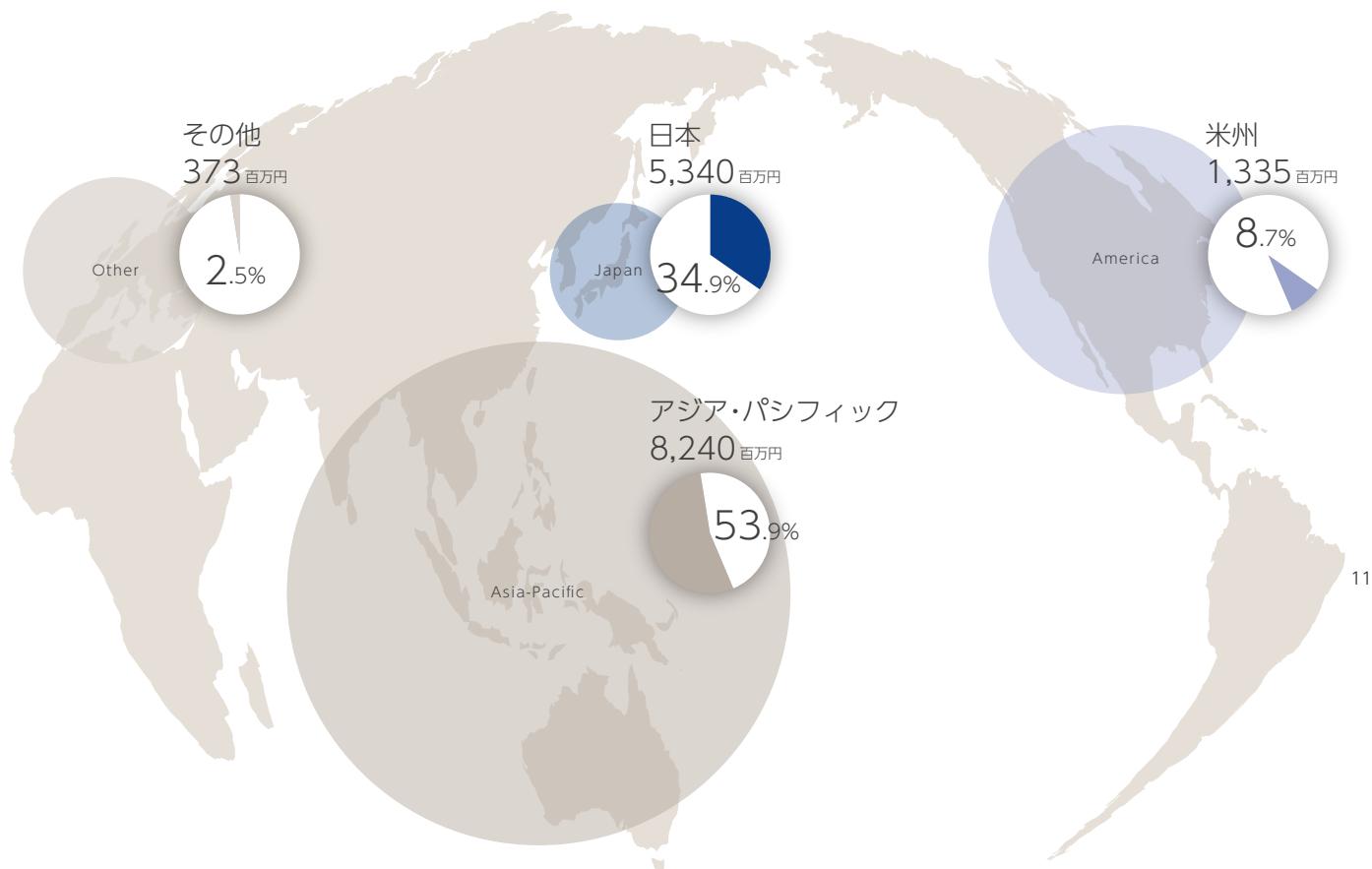


地域別売上高構成比



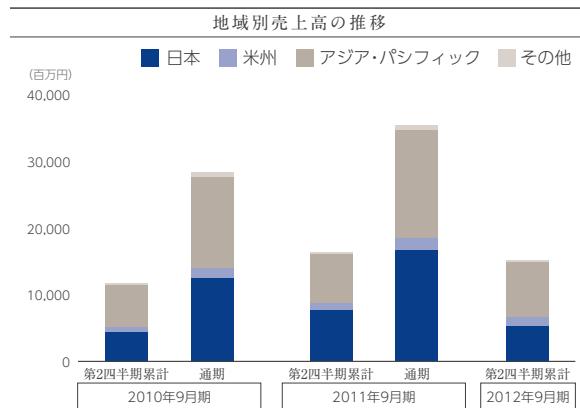
(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

地域別の概況



第2四半期連結累計期間の地域別売上高は、国内が前年同期を下回る結果となりましたが、アジア・パシフィック、米州、その他地域は前年同期と比べ伸長する結果となりました。

国内では、平面研磨装置関連事業がエレクトロニクスの市況調整の影響などにより、売上高は53億40百万円となりました。アジア・パシフィックでは、溶接機器関連事業が好調な伸びを見せ、売上高は82億40百万円となりました。米州の売上高は13億35百万円、その他地域の売上高は3億73百万円となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(百万円)

科目	当第2四半期末 (2012年3月31日現在)	前期末 (2011年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	25,370	23,132
固定資産	9,157	8,850
有形固定資産	7,468	7,221
無形固定資産	244	235
投資その他の資産	1,445	1,393
資産合計	34,527	31,983
負債の部		
流動負債	9,167	8,847
固定負債	1,920	1,925
負債合計	11,087	10,773

連結損益計算書(要旨)

(百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2011年10月1日から 2012年3月31日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2010年10月1日から 2011年3月31日まで)
売上高	15,290	16,372
売上原価	10,592	11,507
売上総利益	4,697	4,865
販売費及び一般管理費	2,799	2,786
営業利益	1,898	2,078
営業外収益	298	130
営業外費用	64	57
経常利益	2,132	2,151
特別利益	—	132
特別損失	100	69
税金等調整前四半期純利益	2,031	2,214
法人税等	683	501
少数株主損益調整前四半期純利益	1,348	1,713
少数株主利益	192	78
四半期純利益	1,155	1,634

(百万円)

科目	当第2四半期末 (2012年3月31日現在)	前期末 (2011年9月30日現在)
純資産の部		
株主資本	24,159	23,392
資本金	1,925	1,925
資本剰余金	2,373	2,373
利益剰余金	20,937	20,170
自己株式	△1,077	△1,077
その他の包括利益累計額	△1,814	△3,039
少数株主持分	1,095	857
純資産合計	23,440	21,210
負債純資産合計	34,527	31,983

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2011年10月1日から 2012年3月31日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2010年10月1日から 2011年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,671	340
投資活動によるキャッシュ・フロー	△534	△254
財務活動によるキャッシュ・フロー	△206	450
現金及び現金同等物に係る換算差額	463	76
現金及び現金同等物の増減額	1,393	613
現金及び現金同等物の期首残高	5,224	4,086
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,617	4,699

13

14

会社情報 (2012年3月31日現在)

会社概要

商号	OBARA GROUP 株式会社
設立	1958年12月
資本金	1,925,949,120円
従業員数	21名(連結 1,631名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-1111(代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・ 推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	http://www.obara-g.com/

- (注) 1. 商号は、2011年10月3日付でOBARA株式会社より商号変更しております。
 2. 本店所在地は、2011年10月3日付で神奈川県綾瀬市大上4-2-37より移転しております。
 3. 主な事業は、2011年10月3日付で持株会社に移行したことに伴い変更しております。

役員

取締役社長	小原 康嗣
取締役	渡辺 俊明
取締役	小林 憲史
取締役	周澤 健
常勤監査役	谷内 博
社外監査役	大西 倫雄
社外監査役	村松 建夫

- (注) 監査役のうち、大西倫雄及び村松建夫の両氏は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役であります。

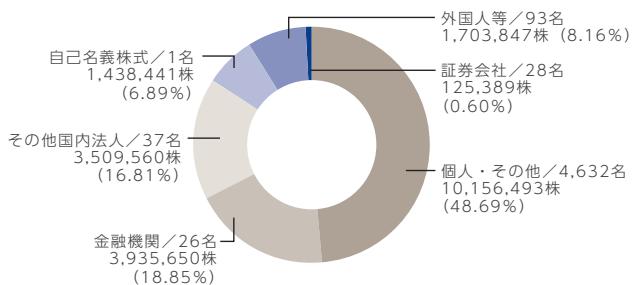
15

株式情報 (2012年3月31日現在)

株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	4,817名

株主分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,199	16.46
小原 博	2,263	11.65
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,017	5.23
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	761	3.91
NORTHERN TRUST CO. (AVFC)SUB A/C AMERICAN CLIENTS	702	3.61
小原 康嗣	611	3.14
株式会社三菱東京UFJ銀行	369	1.90
小原 範子	304	1.56
OBARA従業員持株会	237	1.22
吉田 史子	218	1.12

- (注) 1. 上記のほか、自己株式1,438千株を保有しております。
 2. 持株比率は、自己株式1,438千株を控除して計算しております。

16

株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで	公告方法	当社公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。 http://www.obara-g.com/ 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行なうことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。
定時株主総会	毎年12月		
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。		
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-782-031(フリーダイヤル)		
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店		

17

MEMO

18